

234

April 16 (本) より 廿二日迄。

本日荷物がズル交付された。今日迄種々の
噂が流れて、更に検査後、日常の必要用品のサ
渡され、残りは保管の上、各自の必要次第、物迄
が手交されると報知。何れもまことにやかに傳へら
れしが、全部皆もちょうど渡りしつたのは愉快だ。

右方は漸く靴と剃り下衣と受へホツと一呼
吸ついた。荷物が一々引き出される時の騒ぎを
方々至っては全くお静しい位で、曉古多井には
大層驚きはかりだ。懐の無い、軽き振りがいかん
無く暴露されて見らからしむるといい心地がする。

僕は荷物運搬の折、一名の無装者に突き
寄せられ、曲んで *Swinease* を置かんとする処に
其処に立って眺めてゐた男が何んがためか、突然
駆け出し、腹で顔面と打ち当て、眼鏡を破壊
されて了つた。場所柄修繕は不可能だらう。

テ
ント
指揮
者。

此のテントはオセオセだ。規則に基づき *leader*
と選出するに、諸君は僕を推薦したてゐる
が未だ健康全からず、責任者たるを將ふにや
うな、実践戦り家のオセオセが最通、責任者たるを
免れず、合同と推し受諾さん。

此らの区域の代表者は竹岡君に決定した。

昨夜竹岡代表より、各区域代表者と監督武官との
会見事項につき左の如き報告がなつた。

即ち右は在日internの米人と在米日本人との交換に

関する問題に相当重大な事でもある。

即ち本日も Camp を都から騰写版の本國
帰還に関する質問書が配布されたのであるが、
其の依ると、

若し本國へ送還 (to be repatriated) するべき
場合が生ずる (possibility) とせば、速んで日本
へ還る意志ありや、と云うのであって、在米住所
並に本國住所と、相携へて行くべき dependents 即
ち妻子の姓名を附記する事になってゐる。

然し右は頗る重大な事であるが故に、各代表者は
集會を催し討議の上、斯る書類は輕くはサインは
送らなくて、直ちに直接面會の上、更に内容
の意義と確かむべきか一同の一致の親切な更
度なり。尚武官の出席を求めたる質問
をうけた。即ち質問すべき最重要のポイントは
repatriate の意義であつて、右は居住權即ち
本人の南米籍を認めないで永住の特權を自
ら放棄し、歸國する事を随つて物事の上は
平和後周渡米は不可能なりとの質問に
對し、尚武官は“然りと解す”旨返答
あつた。だが其れも個人の意見に過ぎず法理
的の解釋は自らも確信なきをいふと云ひ、諸君
も輕くは Yes と記入も出来ぬといふやうに
同情的の意を表明があつたから、然しらは
本兵営内にも司法部のある事と察するから

236

更に其方面の説明と請ふると、真流塔がふつと
の輿末報告だ。即ち、右書面への Yes 等は No
の記入は、明日正午迄に本部へ提出すべきだとか
右の事情に依り、該武官(少佐)は責任を以て
之を延期する事と云ふ。

更にシラに在る折り、外交官及び国際商人等
の日本交換の情報あり、在る者に希望者は亦其
れに加へると傳へられてゐる。僕は今度 Missoula
に立移動が費せられるや、然るの後、断然
之の交換に加はる事既に決意してゐるから、
無論事情のいかんにか拘らず、然りと回答す
腹である。

次で再度翌日に到り、報告がふつたが、軍中司令部
にキャンプ収容日本人は、今後 War prisoners として取
扱ふべき旨と言ひ渡す。更に前記質問書は十八
日正午迄に之に答へて提出せよとの命令に云ふ。

僕は直に然りと答へ as soon as possible と
附記に差出した。オレゴン州出身及びワバト出
身の同胞中、Yes と答へたものは、西野、福田佐藤
子林(Astoria)、中村、石橋、篠目、守長、加藤(明)
松浦の諸君であつた。Panama、ハワイは殆ど全
部、加州方面は約半数で合計約二百二十名
に達する云ふ。

自來キャンプ内は、此の然り、否の問題で各自
が我田引水酌の見地から、実に喧々囂々の声に

237

交換船
制備報

我説に固指に金くちる靴への矢先を以て。tent
内に便所、或は洗面所から食堂と到る処に
此内題で沸騰にぬる。最も聴く耐への物は、
自分が然りと返答したため、否と記入する者と
暗に軽蔑し先には攻撃的言辭を弄する事と、歳
者らに之が将来中所監禁者は全部交換さるべき
は必至で今更米子に悉々の要は無い事と、暗
に自己が取つたと同様の立場ル一人にても多とを
誘導するかの如き態度だ。財産と妻子とを後に
引越半生の居住地を捨て去つて行くのは、倒産堪へ
難きものであらう。と共に妻子との了解なくして單身
ゆきと断りしめる程の信頼確固たる夫婦も
餘り多とは無いであらう。假令、財産の処分及び
向後の配慮には、何らの疑ひは無いにしても、夫
の一方的命令を敢て成し得る程の家庭は、在米
同胞中には少ないと見られる。

戦後の復活を夢み、尚ほ興亡に拘はる日米両國
の乾坤一擲の大戦と外に、敵國に悉々の情を
捨て難いのも、米子市民として養育した子女を有つ、
要則的お家庭生活に基固むか為めである。
誠に同情すべきものがある。

新収容所に監禁、身と成つてゐる日本人現
在數を挙ぐれば、

⑤ ハワイより護送=170人 (4月9日着)

右の外重ルおハルルから一回換替者としてワイスコンビル

238

へ護送並禁ざれた者 180人

① パナマより = 182名 此外婦人及び子女は
82名 (テキサス州収容)

② 米本土 = 503名
合計 = 767名

即ち日米両国に於ける Internees 相互交換の事情はパナマ出身者側よりの報道として傳へられることとなり、彼等がパナマ出発直前ルスペイン公使からの申渡しにて、大要を知らせようといふ。

米土側は在支陸戦隊を合め、主として外交官を初の一般在日者と在米日外交官等の交換せられるのであつて、出國に當り資金、携帶金を許可すると共に、携帶金は行貨金一ヶ月、携帶金は税関検査を要し、又何等出國に於ける税金は課せられ、云々申入れ提議に云々。日米側はこれに對し附帯條件としてカナ太及び中南米に於ける外交官をも加へる事に、凡て米國側よりの提議を承諾し、即ち兩國の交換船は南米の南端方面に於ける中立國の領地にて、兩國人の交換が豫想されるとの事である。

之に従つて色々のテマが罷んで、交換船はニューオーストリアに寄港し、帰國者は同地にて上船する筈に成つて居り、時期は五月一日と云ひ又二日といふ言ふ。何れも信に難いから、スペイン公使の申渡云々は事實である様である。尚ほ、其後

339

某氏の家族(加納)から電報も来て帰国するかと通知が来たといふは、又十一日セント高尾氏に在りヤールの娘の婚約からは、幾く長距離雑電話にて、若し帰国するから直に送金すべきに申越した事実がある。此れに由つて観ると、金米の新庫に交換問題が大々的に報道される事は察知し得る。

中キャンプではレディは勿論新聞及雑誌が絶対許可され、皆目外部の事状と知り得る、單に暦日を忘るぬやう繰り返へし算子に於ける事だから真相は何時も信じて良しかわらんのである。

茲に吾らが最大の関心を拂ひ置く注目は、おとくはおらぬのは、吾らに對する War Prisoners の意義に、常識的に「捕虜」である。何んのための捕虜であるか、又何と目標として捕虜としたか、敵國人として危険と惹起するを憂へ、平時に彼等と concentration camp に收容するとは戦争中平國の常例として各國が実施し且つ承認をしてゐる戦時常識に、然るに吾らの如き特別の差別取扱による差別手段は了解し先づけ勿論で、政治的犠牲に成つてゐるを見らぬやうな事も無い。

廿一日再び注射実施。夕暁から猛烈寒威に、雖つて然に、約八時頃には全身震へ

340

別に寒さを覚へ、為めに更に自分の毛布をさらして
重ねた。翌日は頭痛に堪へず、熱さ、乾いた喉
と鼻に、全く喫煙の味なく、恰度悪性の風邪とす
も変りはない。翌日から全二日間臥床するの已む
なき状態に陥つた。頭痛を訴へた結果、甲トマー
はアスピリン薬を呉れたので、一服すると空っぽ
に治つたが、胃の方へ延び始め、難い苦い味がReact
し、非常に苦痛で悲鳴を上げ、いわけには
なりかかった。

自來食事は朝食を除き、五分ほど夕食は
單に箸と箸ける程度に仕て居る。

木曾文人から四月六日の日本文手紙が届く、
新文社の方は近日中に全部は着く事に成つてゐる
から安神されよとの平、真に懐しい事情である。尚お
書面中に中谷の宛直接送金と請求せられよと
電ねて注意に来て。僕の留守中、集金に知
らぬ顔の半平と定めて、白田文人等の御忠
告を黙然と受ける彼の態度が、はつきり判り、大平
泥めの中谷の心算が窺知出来る。

白田氏令嬢 May の名目にて金廿五弗届く。
中谷からの送金たるは疑の余地はない。

Aph'ic 28th (火)

今日入手した手紙の受取中。オレゴン方面の人達
が受け取つた分の殆ど全寄は、シリア収売所から届く。